

# 農業技術情報

令和元年9月17日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
J A 幕別町	0155- 54-4118
J A 札内	56-2131
J A 帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

各作物の生育・作業の遅速（幕別町9月15日）（ ）内は平年値（※前年値）

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
馬鈴しょ	早3	収穫始 8/26(8/31) 収穫期 9/10 (9/17)	
大豆	早5	莖長 80.1(68.9)cm 葉数 10.0(9.1)枚 莢数 580.8(520.0)個/m <sup>2</sup>	
小豆	遅2	莖長 55.1(57.0)cm 葉数 11.9(11.4)枚 莢数 280.4(392.2)個/m <sup>2</sup>	
菜豆（金時）	早2	莖長 53.1(55.0)cm 葉数 4.0(4.1)枚 莢数 168.7(153.4)個/株 収穫始 9/6(9/10)	成熟期 9/4(9/6)
てんさい(移植)	早5	根周 38.7(36.7)cm	
てんさい(直播)	—	根周 28.5(※30.9)cm	
牧草	±0	草丈 92.0(91.0)cm 収穫期 9/3(9/3)	
飼料用とうもろこし	早1	稈長 275.9(282.8)cm 収穫始 9/14(9/14)	糊熟期 9/9(9/10)
ながいも(マルチ)	±0	子重 27.3(30.5)g 莖葉重 617.5(539.7)g いも長 71.5(72.9)cm いも重 1040.2(981.2)g いも径 66.7(63.2)mm 首長 23.4(21.6)cm	
たまねぎ			収穫期 —(9/19)

## 畑作

### <秋まき小麦>

越冬前の十分な生育量を確保するため、適正な種床の準備、適期は種、適正は種量を心がけましょう。十勝管内ではまだ発生が確認されていませんが、道内他管内で「なまぐさ黒穂病」が発生しており、本年産小麦でも昨年並の発生面積（4振興局計 128ha）で、根絶には至っていません。

本病は、種子および土壌伝染し、は種時期が遅い、は種後の土壌水分が高い状態が続くなどの条件で感染しやすくなります。自家更新種子の使用は避け、種子消毒を必ず実施し、適正は種に心がけましょう。

#### (1)は種時期

越冬前の葉数は5葉前後が目標で、現在は種適期（麦の越冬前葉数4～6枚が確保できる時期：糠内アメダス平年で9/12～24）を迎えています。

は種遅れは莖数不足や春先の凍上害のリスクを招き、登熟の遅れや収穫時期の遅れ穂発生など、品質低下の要因ともなるため、適期は種に努めてください。

表1 小麦の遅まきのリスク（H31「北海道の小麦づくり」一部改変）

リスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・越冬前の生育が不十分となりやすく、寒害や凍上害(断根、根浮き)を受けやすくなる。</li> <li>・は種時期が遅くなるほど雪腐病の発病度が高まり、減収・品質低下の要因となる。</li> <li>・成熟期が遅れ、雨害(穂発芽等)にあう危険性が高まる。</li> <li>・遅れ穂が多発しやすくなり、登熟ムラや粒の充実不足等が起きやすい。</li> <li>・地温が低くなるため、なまぐさ黒穂病の感染リスクが高まる。</li> </ul>

十勝管内では未発生ですが、なまぐさ黒穂病の耕種的防除も併せて行いましょう！

① 必ず消毒済みの採種ほ産種子を使用し、適期は種を目指しましょう

② は種床は膨軟にしすぎず、適正は種深度(2~3cm)を守りましょう。  
 深まきは出芽までの日数を要し、感染のリスクが高まります。

(2)は種量

小麦の発芽率が90%の場合、越冬後の生育が安定する‘主茎葉数4~6枚が確保できる時期’で150~200粒/m<sup>2</sup>とし、は種時期の早晚により、は種粒数を増減します(表2)。また、出芽率が低いほ場では、適宜は種量を増量します。

表2 地帯別は種時期・は種量の目安

越冬前主茎葉数と積算気温	地点	は種時期	は種量 (粒数/m <sup>2</sup> )	は種量 (kg/10a)
〈目標〉4~6枚 (390~580℃)	糠内	9/12~24	150~200	6.5~8.6
	相川	9/16~28		
	南勢	9/15~27		
	明倫	9/16~28		
	駒島	9/12~24		
	日新	9/16~29		
〈やむをえずは種が遅れる場合〉 3.1~4枚 (291~390℃)	糠内	9/25~10/2	200~250	8.6~11.0
	相川	9/29~10/6		
	南勢	9/28~10/4		
	明倫	9/29~10/6		
	駒島	9/25~10/2		
	日新	9/30~10/7		

積算気温に基づくは種時期は各地点 2010~2018 の9カ年平均値に基づいて算出  
 千粒重は43g(本年幕別・札内産)として計算

【表2以降の極端な遅まきとなる場合】

- ① は種量は12.5 kg/10a(288粒/m<sup>2</sup>)を限度に、やや多めとする。

※収量確保の目安として越冬前莖数 370 本/m<sup>2</sup>(「北海道の小麦づくり」出典)を目標に、千粒重 43g(平年値)、ほ場の出芽率を 85%として計算。

② ほ場が過湿な条件での作業は避け、排水対策を徹底します。

※は種直後2～3日以内であれば、ほ場内明きよの施工(ほ場内に溝を掘り地表面の余分な水を溝に集めほ場外へ排出する方法)や、は種後の畦間サブソイラの施工も有効です。

(3) 雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのはこの時期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、は種後出芽前に土壌処理を実施しましょう。

表3 秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	10a 当 薬量(ml)	使用回数 (以内)
ガレーズ乳剤※	全面土壌散布 (雑草発生前)	は種後～出芽前	200	1回
		小麦出芽後～出芽揃	150～250	
	土壌兼雑草茎葉散布	麦の1～3葉期	100～150	
ガルシア フロアブル※	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	150～250	1回
	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～200	
ゴーゴースン 乳剤	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	は種後～小麦2葉期(雑草 発生前～イネ科雑草1葉期)	300～400	1回
ボクサー	全面土壌散布	は種後～小麦2葉期まで (雑草発生前～発生始期)	400～500	2回
エコパート フロアブル	雑草茎葉散布	秋期:小麦2～4葉期	50～75	2回

※イヌカミツレが多発するほ場では、使用基準の範囲内で高薬量で使用する。

※ジフルフェニカンを含む農薬(ガレーズ乳剤、ガルシアフロアブル)の総使用回数は1回までなので、いずれか1回の使用とする。

(4) 連作となる場合の注意点

前作の収穫遅れなどやむを得ない状況であれば、早めの決断、早めのほ場準備、可能な限り適期のは種、を行なうことにより越冬前の生育量を確保することが重要です。また、前作の麦稈がほ場表面に露出している場合、雪腐病の感染源となるおそれがあります。耕起を行い、麦稈を地中にすき込むよう心がけ、適期に防除を実施し、越冬後は融雪促進に努めましょう。

ただし、条斑病・縞萎縮病など土壌病害が発生しているほ場の連作は避けましょう。

<てんさい>

(1) 収穫時・貯蔵時の注意点

ア 収穫時の注意点

- ・タッピングは切り過ぎないように調整しましょう。
- ・収穫作業は輸送計画に基づき集荷日の前日迄に終了しましょう。
- ・根腐症状個体を可能な限り取り除きましょう。

## イ 貯蔵時の注意点

収穫したてんさいを堆積・貯蔵する場合は、必ずシートで被覆し、乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

## (2) 次年度産移植栽培の床土の準備

病気の恐れのない健全な土を用意し、pH 測定を実施し目標 pH 6.0～6.5 になるよう粉状炭カルにより酸度矯正をしましょう。

## <ばれいしょ>

### (1) 収穫時の注意

- ・機上選別時、網コン等への投入時には、傷、打撲などを与えないよう注意しましょう。
- ・収穫時の土壌水分は腐敗の発生程度や土離れに大きく影響します。

収穫は晴れた日に行い、収穫後は直ちに風通しの良い日陰で風乾を行いましょう。また、事故のないように安全に十分留意し、作業を実施してください。

## <豆類>

登熟状況と天候を鑑み、適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

### (1) 小豆の収穫

成熟期は平年より2日程度遅れる見込みです。収穫適期の目安は、「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表4 小豆の収穫適期の目安(H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫		熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫	100% (子実水分 16～18%) 完熟期 (熟莢率 100%) から2週間以内	①汎用コンバイン(4条)～熟莢率 90%、 子実水分 25%程度 ②豆用コンバイン(2条)～熟莢率 80%、 子実水分 25%程度

### (2) 大豆の収穫

#### ア 汚粒対策

わい化病株や雑草(特に紫色の実をつけるイヌホオズキ)は、事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を進めましょう。

#### イ 収穫適期

刈り取り時期および時間帯も汚粒の発生に影響します。刈り取り時期は子実水分が20%以下(最適は16%以下)の時とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。朝夕は機体内に塵が付着し汚粒の原因となりやすいので避けましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。可能な限り適期収穫を心がけましょう。

## ＜緑肥のすき込み＞

緑肥のすき込みが遅れると、分解が遅れたり次年度以降に雑草化する場合があります。緑肥が結実する前（出穂または開花後7～10日を目安）で温度がある時期（遅くとも10月下旬まで）に鋤込みましょう。

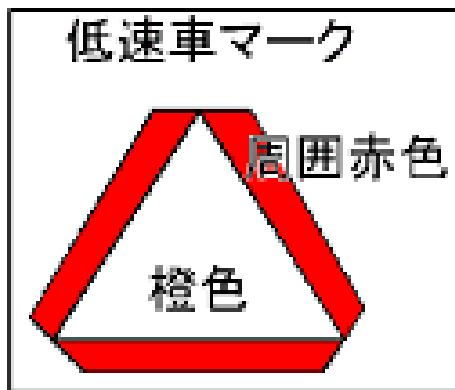
特に「ひまわり」は、花蕾に菌核病が発生することがあり、後作に「ばれいしょ」、「豆類」、「野菜類（白菜、キャベツ、レタス等）」を作付する場合は、開花前にすき込んでください。

## ☆ 農作業事故を防ごう！

### 作業の遅れを取り戻そうとする“あせり”注意

豆類の収穫と小麦は種作業などが重なり、心身の疲労が心配されます。一層の事故防止に努めましょう。

- 1 トラクタ発進・PTO始動時は、クラクションを鳴らし周囲に合図する。
- 2 機械の調整・整備時（つまり物除去等）は、必ずエンジンを止める。
- 3 機械への飛び降り・飛び乗りをしない。
- 4 作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、機械が降りないように、「固定脚」や「かませ木」を使い、作業機が下降しないことを確認してから作業する。
- 5 夕方や夜間に公道を走行する時は、車幅灯を取り付ける、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなど、トラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようにします。



# 野菜

## ＜ながいも＞

本年の9月15日現在の作況調査（マルチ栽培）では、1株当たりいも重は1040.2gで平年比106%、いも長は71.5cmで平年比98%と、9月に入り新生いもの肥大が進んでいます。また、乾物率は11.6%で、平年の9.9%を上回っています。

### （1）つる切れ・倒伏対策

この時期は茎葉量が多く、ネットのたるみが発生しやすくなります。また、強風等により倒伏すると、いもの生育と登熟が止まるため注意が必要です。つる切れや倒伏対策として、支柱やネットの点検と補強を行ってください。

### （2）トレンチャー溝の陥没対策

多量の降雨によりトレンチャー溝が陥没する場合があります。陥没すると奇形いも発生の原因となるため、枕地の溝切り等の対策を行ってください。

## ＜はくさい、キャベツ＞

### （1）キャベツ・はくさいの害虫防除

ヨトウガは2回目の発生時期に入っているため、発生状況に応じて防除を行ってください。※薬剤については、「平成31年度農作物病害虫防除基準」を参照。

### （2）キャベツのべと病・菌核病の防除

べと病・菌核病の発生に注意してください。

表1 ベと病・菌核病の防除薬剤例

対象病害	薬剤名	系統名・成分名	使用濃度（倍）	使用時期	回数（以内）
べと病	レーバスフロアブル	マンジプロパミド	2,000	収穫7日前	3回
	ランマンフロアブル	シアゾファミド	2,000	収穫3日前	4回
	ダコニール1000	有機塩素(TPN)	1,000	収穫14日前	2回
菌核病	ファンタジスタ顆粒水和剤	QoI	2,000~3,000	収穫3日前	3回

### （3）はくさいのべと病、黒斑病、白斑病の防除

黒斑病が発生しているため、防除を実施してください。

表2 ベと病、黒斑病、白斑病の防除薬剤例

対象病害	薬剤名	系統名・成分名	使用濃度（倍）	使用時期	回数（以内）
べと病 黒斑病	プロポーズ顆粒水和剤※1	ベンチアハリカルボキシプロピル(TPN)	1,000	収穫7日前	2回
	ダコニール1000※1	有機塩素(TPN)	1,000	収穫7日前	2回
白斑病	ストロビーフロアブル※2	QoI	3,000	収穫3日前	3回

※1 プロポーズ、ダコニールの茎葉散布は、合わせて2回まで。

※2 ストロビーは、結球前の散布および高温多湿条件下での散布を避ける。

## ＜レタス＞

病害ではべと病、すそ枯病、灰色かび病、菌核病の防除を行ってください。害虫では引き続きナモグリバエ、ヨトウガ、アブラムシなどの防除を適期に行ってください。 ※薬剤については、「平成 31 年度農作物病虫害防除基準」を参照。

## <たまねぎ>

今後、収穫直前までの防除と早期の収穫作業を徹底し、皮ムケや腐敗の発生を最小限に抑えてください。

### (1) 収穫直前までの灰色腐敗病防除

灰色腐敗病や細菌性病害の被害を防ぐため適期に防除を実施し、被害軽減に努めてください。特に多雨で推移する場合は、防除を徹底してください。

表 3 灰色腐敗病・軟腐病の防除例

防除時期	対象病害	薬剤名	成分名	使用濃度 (倍)	使用時期	回数 (以内)
(臨機)※	灰色腐敗病	トップジンM 水和剤	チオファネートメチル	500~1,000	収穫前日	5回
	軟腐病	Zボルドー	塩基性硫酸銅	500	—	—
収穫前日	灰色腐敗病	トップジンM 水和剤	チオファネートメチル	500~1,000	収穫前日	5回

※ 根切り後、収穫までに時間を要する場合

### (2) 収穫の早期実施

例年、収穫時の長雨等により収穫が遅れ、泥の付着やシミの発生等による外観品質の低下が見られます。根切り後、茎葉が枯葉したら速やかに収穫を行ってください。

#### 【収穫にあたっての留意点】

- ・腐敗球や肌腐れ、抽苔等の障害球の混入防止のため、収穫前に除去してください。
- ・収穫作業は朝露が乾いてから行ってください。
- ・タッピングは首部が十分乾燥してから行ってください。
- ・収穫後のコンテナは、搬出しやすい排水良好な場所に置き、風乾してください。コンテナの間隔は、50cm以上開けて並べ、風乾を行ってください。風乾が悪いとオニ皮の色のりにも影響があるため、必ず間隔をあけて管理しましょう。